

諦 崇 寺 報

発行 諦 崇 寺
 編集 藤 井 崇 文
 〒631-0065
 奈良市鳥見町
 2丁目28-10
 0742(37)2569
 www.rittouji.jp

お仏膳

—仏さま・先祖さまに感謝—

お仏壇にお供えするお仏膳は、お檀家さんによって様々です。「故人さまがお好きだったものを並べておられるんだろうなあ。」「きつと故人さまから教わったお料理を作られたんだろうなあ。」「慣れない料理を一生懸命されたんだろうなあ。」「と真心を感じるような温かな気持ちになり、読経させて頂く私も気が引き締まります。

あるお檀家さんのお仏壇の開眼へ伺いましたら、お仏膳は初めて用意された筈なのに、お箸が正しい向き(仏さまから見るとお箸の先が右側)に置いてありました。「よく御存じでしたね。」「と尋ねましたら、「いいえ、知りませんでした。故人が左利きでしたから。」「とお答え下さいました。お仏膳は、ご家族の思いが表れます。お仏膳そのものより、何よりも故人さまを思うご家族のお気持ち、感謝の心が大切であります。

お仏膳は必要？

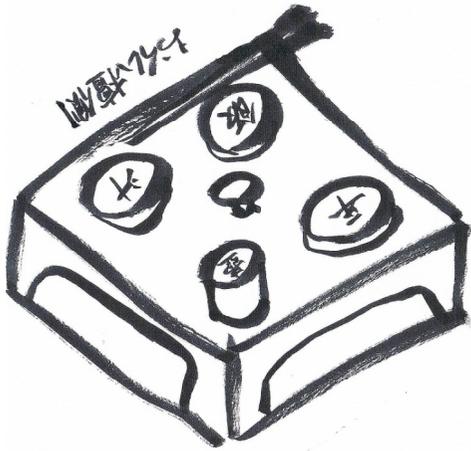
お仏膳は「用意しなければならぬもの」ではなく、「仏さまやご先祖様は、是非の用意をせよ頂きたいもの」であるべきです。お仏膳は、「私たちが暮らしてご飯を食われるのは、仏さまやご先祖さまのお膳です。」「と感謝の気持ちで精進し、表すためにお供えするものです。」「用意出来ない場合でも、「必ず用意して頂く。」「と申しませぬ。昔々昔の自身のお供えにお任せしておきます。お仏膳が用意出来なくても他の方法で、仏さまやご先祖さまへ感謝やお接待のお気持ちを表して頂ければいいのです。

漆塗りのお仏膳は必要？

前述のような考えに立てば、必ずしも仏具店で売っているような漆塗りのお仏膳でなくても構わないと思えます。ただ法事の際などは、漆塗りのお膳がお供えし易くて便利だと思えます。いすれにせよ、綺麗な器、大切な器へ、お心を込めたお料理を盛り付けて頂ければと思えます。

お膳の数

それぞれの仏さまに「膳すつこ」用意させて頂くのが本来ですが、さすがにご家庭のお仏壇には並べ切れません。



ご家庭のお仏壇にお供えする場合、お釈迦さまをはじめとした「仏さま」用の大きいお膳、「ご先祖さま」用の小さいお膳(同じ大きさのお膳でも結構です)の二膳これが一般的だと思えます。お仏壇の大きさに合わせて、一膳しか並べられない場合、その一膳に二膳分のお気持ちを込めて頂ければと思えます。

いつお供えする？

「私たちがご飯を食われるのは、仏さまやご先祖さまのお膳」と感謝することが目的ですから、私たちがご飯を食えるようにお供えするのが本来であります。しかし、これも毎日、毎食では

ご負担が大きいですから、日常の出来る限り、続けられる範囲でお供えして頂ければと思えます。

例えば朝でしたら、「おはようございます。」「の意味を込めて、お茶やお水、ご飯をお供えして頂ければと思えます。毎朝ご飯を炊くご家庭も少なくなってきましてから、ご飯を炊いたときは、真っ先にお仏壇にお供えして頂けたらと思えます。お家によっては、コーヒーや紅茶、パンをお供えして頂いても構いません。

おやつがケーキでしたら、まずお供えしてから食べて頂くので、ご夕食であれば、おかずを小皿に分けて、たとえ一品でもお供えして頂ければと思えます。

お茶やお水など飲み物は、一日お供えして頂ければと思えます。ご飯やおかずなどは、暑いときは傷むのが早いので、昔々まご自身が食べる前にお仏壇へお供えして頂いて、(お線香を立てて)手を合わせて頂く(あるいは読経して)、すぐにお下がりをお供えて頂く。

「いつお供えしなければならぬか、また逆にお供えしてはいけない時はありません。」「正式でなければならぬ。」「と構えてしまわずに、日常の出来る限り、続けられる範囲でお供えして下さい。そして毎月のご命日、毎年のご命日、お盆、ご法事のごときは精進し、いつのお仏膳をご用意して頂ければと思えます。

何をお供えする？

前述のように皆さんが食えるものを昔々ママが食べる前にお供えして頂ければと思えますが、厳密に言えば、お仏膳は当然に精進料理でありますから、お肉やお魚、卵、

ネギなどは使えません。忘れがちですが、お魚のお出汁も使えません。現在にお供えて守ることは難しいので、ネギや玉ネギなどのお野菜、お魚のお出汁はお使い頂いて、お肉やお魚をお供えする場合は、お仏壇の中に入れます、前机などにお供えして頂ければと思えます。

- 以下に「いわゆる」「お仏膳」に何をお供えすれば良いかを紹介します。
- ・飯椀
白飯もしくは炊き込みご飯。お仏壇の開眼なら祝事は赤飯。
- ・汁椀
- ・平皿
お味噌汁もしくはお吸い物。
- ・平皿
お野菜の煮物。品目は五種と言われますが、こだわらなくても構いません。
- ・靈櫃
和え物もしくはお浸し、酢の物。
- ・高坏(たかつき)
酢の物もしくはお漬物。
- ・お箸

お箸の向きは諸説ありますが、お箸は、ご飯を戴く前にお箸の先が右側にくるよう並べ、食べ終わったら逆向きに置いていきます。満中陰(四十九日)まで割箸を使うときは、故人さまが食べられませぬので、必ずお箸を割って並べて頂く。

・蓋

蓋があつては仏さまも食べられませぬから、取っておいて頂くか、読経する前には外して頂く。

あてがき



永平寺で修行中、師匠(栗東寺住職)

と言われましたが、出来ませぬでした。乍ら(修行が終わって)十年が経ち、少し分かるような気がします。気が付いたらもう残した苦勞と努力が眼前にありました。苦勞、努力、そして辛抱…これまで逃げてきたものばかりでした。今こそ眞實に向き合つて、辛抱しない！

崇文拜